

植物と人々の博物館メールマガジン

第 89 号 2022 年 7 月 3 日発行

2023 年は国際雑穀年



カサブランカなどのユリ、フヨウも咲いています。バジル、ヒヨットやオクラも元気に育っています。あっさり梅雨明けだそうで、季節の移ろいがとても早い気がします。百姓は高温、日照り、早魃、台風を来る前から心配しています。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になってくださるとうれしいです。

○報告

国会図書館 e-デポに収録のサイト植物と人々の博物館に、生き物の文明への黙示録も公共性の高い資料が充実してきたので、追加収録していただくようにしました。

○予定

1) 開館・作業予定日：7 月中に 1～2 日は開館します。

2) 民族植物学ノオト第 16 号の原稿は 12 月を締め切りにして募集します。ご寄稿ください。森とむらの図書室、日本村塾、農学校などの小史を記録します。編集子は大国主命と八神姫の子、木俣の神の末裔として、信仰論を寄稿する予定です。その後の冒険学校、ちえのわ農学校、日本村塾の小史も記録してほしいです。

第 15 号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：

選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』を未定稿公開します。一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍、選集 III『日本雑穀のむら』は年内完結を目指して加筆修正もしています。選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』の読み書きを進めて、順次公開します。現在、縄文と弥生共存期、タミル語とイネ・アワの伝播、シコクビエについて論考を深めています。これら 4 冊のまとめとして選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。クリンネス（木俣美樹男 2022）は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

4) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」。ありがとうございます。

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけロー

テクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願ひします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf および 2022 年の予定など、ご案内は下記のサイトにあります。 <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。参加申込みをしてくださった方には当日の要綱、交通案内、zoom の URL などをメールでお伝えします。

共通申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

○報告

第 7 回環境楽習会 日時：6 月 26 日（日） 17 名参加 猛暑日

野外巡検案内解説者：福田恵一さん（羽村第一中学校）

場所：西武国分寺線／鷹の台駅から JR 中央線／国分寺駅まで。玉川上水と恋ヶ窪分水、野川源流部の姿見の池を巡検し、水環境と暮らしの歴史を学んだ、とても有意義な、楽しい巡検でした。

○予定

第 6 回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：7 月 31 日（日）13：30～16：00 集合・解散場所：JR 東小金井駅北口

場所：小金井市関野町、梶野町の玉川上水周辺（定員：15 名）

プログラム：

話題：屋敷林、都市農地の巡検

案内者：小谷俊哉さん（グリーン・ネックレス）

内容：梶野町周辺の屋敷林や農地の巡検。

コースイメージ：東小金井駅→梶野公園→スタジオジブリと周辺のジブリが取得したオープンスペース→瀧島さんの屋敷林と農地と賃貸アパートの見事な花壇→築樋→気に広がる武蔵野市の桜堤団地と新しい広場空間→東小金井駅。

第 9 回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：8 月 21 日（日）予定

場所：相模原市緑区上岩、宮本茶園の雑穀畑

実習：防鳥網の設置

実技指導：宮本透さん

第8回環境楽習会

日時：8月28日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびオンライン（定員：20名、ZOOM：100名）

話題：（仮題）市民大学の試み

話題提供者：深澤まどかさん（シブヤ大学）

シブヤ大学の活動から、市民大学、自由大学の重要な役割と可能性を学ぶ。

第7回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：9月25日（日）14：00～16：00

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）（定員：会場15名、オンライン20名）

プログラム：今回は、心の基盤を創る自然体験、生活体験について話し合いたいと思います。

話題：冒険遊び、野良遊び、プレーパーク

話者：邦永洋子さん（NPO法人こがねい子ども遊パーク）

要旨：武蔵野公園のプレーパーク、南学童農園、小金井環境市民会議環境学習部会のたんぼの時間、東京学芸大学のちえのお農学校、プレーパーク、自然文化誌研究会の冒険学校などをつなげ、人々と経験を交流します。

申込み連絡先：042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または

office@katayamakaoru.net 資料代300円

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。このような考え方が、うれしいことに日本版気候若者会議からも示されています。 <https://youthclimateconference.jp/about>

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記サイトにあります。

3. 雑穀街道普及会：

○報告

1) 雑穀街道普及会の冊 800 部は行政関係者や関連団体、関心のある方に配布しました。藤野駅横のふじのね、東京学芸大学環境教育研究センターほかにも置いてくださいました。ご住所をお知らせくだされば、必要部数を送ります。また、ウェブサイトにも掲載しました。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/ms22n2.pdf>

2) 自給農耕ゼミ (佐野川) :

○報告

佐野川の宮本さんの畑 1.4a にアワ、キビ、モロコシのほか、シコクビエ、ヒエ、ハトムギ、センニンコク、陸稲を播種しました。よく発芽しており、6月20日に除草・中耕作業をしました。自宅のプランタでも在来品種の種子継ぎしています。その後、宮本さんが追い播きをしました。

○予定

これから、雑穀・麦や茶もいろいろな作業が続きます。栽培・加工・調理法などを学びたい方はご連絡くださり、ご参加ください。時期に応じてお誘いします。

8月21日(日) 予定：キビなどが熟してきていると思いますので、重要な作業として防鳥網を設置します。鳥獣は雑穀が好物なので、上手に網を張らないと、壊滅的な被害に合います。簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。ご質問にはいつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

3) 協賛団体など

小菅漁業協同組合は賛同団体に、日本雑穀協会は後援団体になってくださいました。

4) NHK 甲府の製作で、中川さんの雑穀栽培がテレビ放映されて(6月13日、6月23日)、この際に雑穀街道をFAO世界農業遺産申請する活動が簡単に紹介されました。とても好意的な内容でした。この活動は、中川さんや編集子のような縄文人の子孫の最後の抵抗で、もう時が迫っているのです。日本列島の歴史の蓄積を絶やさないように、切にご助力をお願いしたいです。

○予定

1) 東京学芸大学創基150年記念の**雑穀発泡酒クラフトのプロジェクト**をご相談いただきましたが、進展はないようです。私たちは材料の雑穀もホップも栽培を進めていますので、準備を続けます。自給農耕ゼミと一緒に、宮本さんの畑で栽培したキビとホップで藤野の醸造所に委託して醸す予定です。学大のプロジェクト提案が立ち消えになっても、国際雑穀年記念発泡酒としたら良いかと思います。いずれ協力をお願いを申し上げます。

2) 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974~2017)をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnpmilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

4. 自然文化誌研究会

本年の主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。

こすげ冒険学校、まふゆのキャンプ、INCHまつりライブは開催予定でいます。タイは未定です。

5. 桂川・相模川流域協議会市民部会

1) 桂川・相模川流域協議会の総会(6月11日)に出席し、雑穀街道の冊子を配布していただきました。

2) 幹事会(6月16日)で木俣がパワーポイントで雑穀街道協議会(準備会)を紹介し、協賛をお願いしました。この件は市民部会で賛同を得ていましたが、幹事会では山梨県職員担当幹事の反対で、賛同団体になることが保留されました。Zoom会議ではその理由が良く聞き取れませんでしたので、幹事会議事録を頂けるようお願いしています。

6. ワノサト企画室

6月12日に開催されるローカリゼーション・デイ日本において、分科会が28名の参加で持たれました。この際に、環境学習原論には関心を持っていただけました。エコヴィレッジの考えは、エコミュージアム日本村の実践と親和性が高いと思いました。

※協力団体：桂川・相模川流域協議会 植物と人々の博物館 雑穀街道普及会

7. お米の勉強会 雑穀の見学会

日時：8月27日、集合13時

場所：ぼうさいの丘公園東側駐車場

講師：玉木陸斗さん、東京農業大学院生、雑穀街道普及会幹事

申込先：中井美知子さん okome.benkyokai@gmail.com

これらの雑穀保存系統（約 700）の大半は編集子のキビ研究用系統で、退職時 2014 年にトランジション・タウン藤野のお百姓くらぶに移管して、ローカル・シード・バンクとしていたものです。さく葉標本はすべて植物と人々の博物館にあります。その後、担当者の末村成生さんが急逝される（2021 年）などして維持ができなくなり、玉木さんに移管することになりました。ちなみに、編集子が保存していた約 1 万系統オリジナルは東日本大震災時 2011 年に、計画停電と放射性物質汚染を避けるために、急遽、イギリスの王立キュー植物園のミレニアム・シード・バンクに移管してあります。

8. OK シードプロジェクト

6 月 30 日の学習会「命のたねを未来につなごう—富士山麓有機農家シードバンクの取組み」では鈴木一正さんが種採りの活動の重要性について、富士宮市の有機農家が集まり、在来種・伝統野菜を中心にたねを採り、保存し、交換し、未来へつなぐシードバンクの理念と活動を紹介してくださいました。

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅**（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真

西武国分寺線／鷹の台駅から JR 中央線／国分寺駅まで。玉川上水と恋ヶ窪分水、野川源流部の姿見の池を巡検



福田さんの名解説、分水路を探索する

